

7. ワークショップ

ワークショップ一覧

9月7日（土） 午前

WS 番号	テーマ	会場	時間	リーダー	定員 (名)
A-WS-01	日本にも社会小児科学を根付かせよう	WS 会場 1	9:00～11:30	武内 一	20
A-WS-02	診療や1歳6か月児健診で役立つ『子どもの「あし」と「くつ」の基本知識と活用法』	WS 会場 3	9:00～11:30	吉村 真由美	48
A-WS-03	小児科診療所における心理職の実態とスキルアップの道筋	WS 会場 5	9:00～11:30	芦谷 将徳	24
A-WS-04	三方良し！院長、スタッフ、患者さんも満足なクリニック LINE 活用術	WS 会場 6	9:00～11:10	谷口 梢	22

9月7日（土） 午後

P-WS-01	電話対応を活用した保護者支援	WS 会場 1	15:00～17:30	福井 聖子	20
P-WS-02	災害対策 - II その対策で大丈夫？	WS 会場 2	15:00～17:10	萱場 潤	24
P-WS-03	乳幼児の姿勢運動発達の質的な向上のための具体的な指導を学ぶ	WS 会場 3	15:00～17:30	有瀧 愉子	30
P-WS-04	親と子への服薬支援 その8 “くすり”についてよろず相談します～	WS 会場 5	15:00～17:30	上荷 裕広	22
P-WS-05	熱性けいれん どう対応しますか？	WS 会場 6	15:00～17:10	伊藤 純子	20
P-WS-06	子どもの貧困に気づき支援するために part8	WS 会場 7	15:00～17:30	和田 浩	24
P-WS-07	離乳食を食べない赤ちゃん、どうしましょう？	WS 会場 8	15:00～17:10	佐野 洋史	30
P-WS-08	クリニック内の急変対応、みんなどうしてる？！ ～メディカルスタッフとしてできること、一緒に考えよう！～	WS 会場 9	15:00～17:10	野村 さちい	24

9月8日（日） 午前

S-WS-01	ウイルス性呼吸器感染症に対する漢方治療～急性期から慢性期の漢方治療戦略を考える～	WS 会場 1	9:00～11:30	森 蘭子	20
S-WS-02	少子化時代の小児科クリニックについて話し合いませんか（いなこ小児科 WS）	WS 会場 2	9:00～11:10	橋本 裕美	24
S-WS-03	マーラーのフィルムから学ぶ再接近期（いやいや期）の子ども達 ～その対応と混乱する保護者へのアドバイスを考える～	WS 会場 3	9:00～11:30	松原 徹	48
S-WS-04	子どもの姿勢の崩れや歩き方、気になりますか？家庭でも、園や学校でも出来る（子どもの運動発達に基づいた）運動を実際に行ってみましょう！（理論編と実践編）	WS 会場 4	9:00～11:30	千葉 智子	30
S-WS-05	小児科外来でのきょうだい関係における諸問題への対応	WS 会場 5	9:00～11:30	荒川 明里	24
S-WS-06	「他所はどうしてる？」うちではこのようにして予防接種をしています。Part2	WS 会場 6	9:00～11:30	中村 豊	15
S-WS-07	Baby-Led Weaning ～赤ちゃんの食べる意欲を育む離乳食の進め方～	WS 会場 8	9:00～11:10	尾形 夏実	30
S-WS-08	【診療部会メディカルスタッフ担当企画】 集まれ！メディカルスタッフ♪ ～みんなで語ろう！メディカルスタッフの悩み事～	WS 会場 9	9:00～11:10	秦 一裕	30

A-WS-01		日本にも社会小児科学を根付かせよう	
[リーダー] 武内 一 （佛教大学社会福祉学部） [サブリーダー] 佐藤 洋一 （和歌山生協病院小児科）		社会小児科学について、参加いただいた皆さんと深め合いたいと思っています。 今回が第2回目になりますが、初めての参加の皆さんも大歓迎です。例えば、困っている家族を社会資源に繋ぐことは重要だけれど、臨床の現場で気づけるのかなあ、気付けても社会資源が限られる問題もありそう・・・そういったみなさんの現場の悩みを共有し合い、社会小児科学という分野が持続した学問分野として受け入れられるように、イメージを共有していけたらいいなと思っています。 健康の社会的決定要因（SDH）の視点からも、子どもの健康に対するグローバルで全人的学際的アプローチである社会小児科学への理解を深めていくことは大事だと思っています。ぜひ、一緒に新しい小児科学の分野を根付かせていきましょう。 今回は、国立成育医療センターに総合診療部門を設立されたアメリカ、カリフォルニアのジョン高山さんに、ZoomでWSを通してご参加いただく予定です（https://www.ucsfbenioffchildrens.org/providers/dr-john-takayama）。 若い世代、幅広い専門職と繋がりながら、学会でも位置づけられることを願っての取り組みです。小児科医だけでなく、ぜひ幅広い世代と職種の皆さんにご参加いただき、自由に広がりのある話ができればいいなと思っています。どうぞよろしくお願いします。	
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員	20 名	制限なし 社会の中で子どもたちをみることに興味のある小児医療関係者の方	
1 施設あたりの申込制限	制限なし		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

A-WS-02		診療や1歳6か月児健診で役立つ 『子どもの「あし」と「くつ」の基本知識と活用法』	
[リーダー] 吉村 真由美 （（公財）日本学校体育研究連合会・日本靴医学会 小児の足と靴を考える委員会） [サブリーダー] 谷村 聡 （たにむら小児科）		子どもの成長における大きなイベントに、歩行の開始と靴を履き始めることがある。子育て支援施設での講座に行くと、「初めての靴選びは分からないことだらけで戸惑いながら選んでいる」という声をよく聞く。日本では中高の家庭科で衣服のことは過剰なくらい学ぶのに、靴について学ぶ機会はこれまでなかった。今もそれに変わりはない。そのため、子どもが歩き始めると、ネット情報で溢れている真偽のわからない情報を参考にして靴のメーカーを決め、昔からの定説「ちょっと大き目のサイズ」であいまいな基準の大きい靴を選ぶが、なお不安を感じ続けている保護者が数多く存在しているのが実情である。 では、保育所やこども園の先生は靴の知識があるのか？保育専門学校や保育学科の教科書を調べてみると、靴は「足に合ったもの」「履きやすいもの」「しっかり履かせる」という言葉が2行程度で書かれているのが昔からの定番であり、最新の教科書でも、子ども靴の具体的な説明は皆無であった。これらのことから、保育者でも、乳幼児の足と靴の具体的な知識を学ぶチャンスはなく、個人の経験をもとに靴指導をするしかないのが現状だといえよう。 そこで、最新の知見に基づく「乳幼児の健全な成長を促す靴の基本知識」を会員の皆様に学んでいただき、ぜひ診療や1歳6か月児健診に生かして頂きたい。ワークショップは、以下の5つのアクティビティから構成される。導入…靴の履き方とサイズ選びの誤解を解説、実技1…普段の履き方に疑問を持つ、実技2…足の計測⇒足に適合した靴サイズを調べてみよう、実技3…適合した靴を履いて「適合感と足感覚」を体験、講義…足育と靴教育の基本知識①成長過程に応じた靴の形状②足の計測と靴サイズ③正しい履き方を知る。今回で2年目の開催。盛りだくさんの充実した内容で、すぐに役立つ幅広い知識を得ていただく予定である。	
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員	48 名	制限なし	
1 施設あたりの申込制限	2 名まで		
当日参加	不可		
参加費	無料		

A-WS-03		小児科診療所における心理職の実態とスキルアップの道筋	
[リーダー]	芦谷 将徳	(福岡大学／おおやこどもクリニック)	
[サブリーダー]	原口 喜充	(近畿大学九州短期大学／くぼたこどもクリニック)	
	大谷 多加志	(京都光華女子大学／橋本こどもクリニック)	
	平野 仁弥	(帝塚山大学こころのケアセンター／くぼたこどもクリニック)	
	藤井 雅世	(藤井こどもクリニック)	
	久保田 恵巳	(くぼたこどもクリニック)	
過去のワークショップでは「外来小児科における心理職の活用」と「小児科外来における心理職の活用と発展」に焦点を当て、小児科で働く心理職の活動の整理、架空事例の検討を通し、メディカルスタッフと心理職の視点の異同について検討してきた。 課題として、心理職の採算性と小児科診療所でのスキルアップの場の不足の2点が明らかとなった。 そこで、本ワークショップでは、①心理職の活動実態の整理と②小児科診療所で働く心理職の体系的なスキルアップのためのクリニカルラダー作成を到達目標とする。①は実際に小児科診療所に勤務する心理職より具体的な活動内容及びケース数や検査数を示しながら、質的・量的な側面から、心理職の実態について整理を試みる。②については、他の職種の方々のディスカッションを通して、現場でのニーズや課題に即したスキルアップの道筋を共有しながらクリニカルラダーの作成を行う。 このワークショップを通じて、小児科診療所における心理職の活動の理解を深め、スキルアップのための具体的な取り組みを検討する。			
開催形式	問題解決型と研修型の混合型		参加可能な職種 / その他の条件
定員	24 名		制限なし
1 施設あたりの申込制限	制限なし		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

A-WS-04		三方良し！院長、スタッフ、患者さんも満足な クリニック LINE 活用術	
[リーダー]	谷口 梢	(オーシャンキッズクリニック)	
[サブリーダー]	西田 純久	(キッズクリニックサンタ)	
	伊藤 依里	(オーシャンキッズクリニック)	
現代における SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の普及は、個人から法人にまで広がっています。その中でも LINE は、子育て世代である 20 代～ 40 代の利用率は 90%以上であり、既に生活インフラ化している SNS です。そのため、様々な業種が LINE をビジネスに導入しており、医療機関においても例外ではありません。しかし、多くの施設では LINE が一方通行の情報発信ツールとしてのみ使われがちで、院長のみが取り組み、負担が増えるとの理由で導入されない場合もあります。 本ワークショップでは、医療機関における LINE 運用の課題を話し合い、お互いの活用方法を共有します。各施設が LINE を活用して患者との双方向コミュニケーションを強化し、業務負担を軽減しつつ、患者満足度をあげる方法を模索したいと思います。このワークショップを通じて、LINE を用いた医療コミュニケーションの新たな展開方法を学び、実践することで、院長、スタッフ、そして患者さん全員にとっての「三方良し」を実現する一歩にしたいと思います。			
開催形式	問題解決型と研修型の混合型		参加可能な職種 / その他の条件
定員	22 名		看護師、事務職 自施設で公式 LINE アカウント運用に携わる方、又は、運用に興味のある方
1 施設あたりの申込制限	2 名まで		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

P-WS-01		電話対応を活用した保護者支援
[リーダー]	福井 聖子	(特定非営利活動法人 小児救急医療サポートネットワーク)
[サブリーダー]	宮下 佳代子	(大阪公立大学大学院看護学研究科)
	廣岡 由紀子	(特定非営利活動法人 小児救急医療サポートネットワーク)
電話の自動応答やWEB問診システム導入が進み、つながる電話は「直接聞きたい何か」がある相談希望が多いと推測されます。オンライン診療が普及しても予約が取れない場合や診療には至らない相談の場合、電話を選択されるのではないのでしょうか。電話で聞きたいことの内容を検討すると、保護者が家庭でどのようなことに困っているのかを推察できて、保護者支援に役立ちます。 WSでは、電話の会話の特性についての講義に続き、グループワーク(GW)を行います。GWではモデル会話の音声を聴き、電話の会話が保護者にとってどのような印象を与えるか意見交換を行い、保護者の立場に立って話をよく聴くことの大事さとスキルを考えます。他施設の参加者と共に楽しく意見交換するなかで視野を広げ、自ら語ることで学びにつなげます。また、どのような内容の電話が多いのか、電話で困ることについて事前アンケートを行い、WSに反映します。 当団体は大阪府#8000の相談事業を担当していて、電話相談から得た知見を本学会のWSに反映してきました。電話相談は保護者支援のツールとして有用であり、過去の参加者からは「保護者の立場で考えることの重要性に気づいた」等の感想を得ていますが、近年はWEBの導入や、メールやLINEなどのやり取りが多い保護者が増えたことによって、クリニックで対応する電話の内容も変化していることが想定され、改めて今の時代の保護者支援を考える機会としたいと考えています。 参加費は電話相談のテキスト代で、職種によって重要な部分は異なることを説明し、クリニックのチームワークについても考えを深める機会としています。		
開催形式	研修型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	20名	
1施設あたりの申込制限	2名まで	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	1,500円	

P-WS-02		災害対策 - II その対策で大丈夫？
[リーダー]	萱場 潤	(かやば小児科医院)
[サブリーダー]	岡空 輝夫	(岡空小児科医院)
	新谷 尚久	(しんたにこどもクリニック)
本WSは職種を問わず医師、事務、看護師、薬剤師などで新型コロナの影響下、事前にアンケートを実施し、その回答と、大規模災害を経験した参加者より災害時、災害後の医療の提供、クリニックの防災対応について議論したい。前回の結論として多くの施設が何らかの災害対策をしていたが、その内容はヘルメットや食料品の備蓄から、ワクチン等の保管、発電機、高容量バッテリーなど診療を継続するための備えなど様々であり、前回令和4年第31回日本外来小児科学会年次集会で取り上げた議論や対策が十分機能するものであるのかを、令和6年1月1日能登半島地震を契機に再考、評価してみたい。 1. アンケート結果と停電対策、高額となるワクチン等、冷蔵、冷凍医薬品の保存 2. クリニックの経験と対策の紹介 3. クリニック対策の対比用効果と不足点 4. 災害の多様性と想定外のポイント 5. 発災急性期とその後への対策		
開催形式	問題解決型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	24名	
1施設あたりの申込制限	2名まで	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

P-WS-03		乳幼児の姿勢運動発達の質的な向上のための具体的な指導を学ぶ	
[リーダー] 有瀧 愉子 (ありたき小児科) [サブリーダー] 宇野 里砂 (武庫川女子大学教育学部) 天満 麻美 (かるがも藤沢クリニック)		昨年度の乳幼児の発達における重要性を理解するWS「乳幼児の姿勢運動発達の重要性を学ぶ」では、頭蓋変形、向きグセ、反りグセ、異常なハイハイなどに出会うことが多くなり、乳幼児の成長段階をただ単にマイルストーンで評価することの限界が明らかになりました。また、そのような兆候をただ見守るだけでなく早期介入の重要性に焦点を当てました。今回、早期介入の方法や養育者が実践できる具体的な手法について、乳幼児期の理想的な運動発達理論に基づいた方法を体験的に学ぶことを目標にします。さまざまな兆候の問題を識別し、それに対処する方法について実際のケースや実践的な例を通じて共有したいと思います。乳幼児の養育者への具体的な介入方法は多岐にわたります。日常診療の中で触れる親子の姿勢を評価することは早期発見と介入につながる重要なステップとなります。さらに、養育者が日常生活で行うことができる姿勢のサポートやエクササイズを通じて、乳幼児の姿勢運動発達を促進する手段についても議論できたらと考えています。議論の中で、これらの介入方法の有効性や実施可能性についても探求したいと思います。このWSを通じて、実践的な観点から乳幼児の発達支援に貢献できる新たな知識やアイデアを共有し、より健康でバランスの取れた成長環境を提供できるよう努めましょう。	
開催形式	研修型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員	30名	医師、看護師、保育士、助産師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士	
1施設あたりの申込制限	2名まで		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

P-WS-04		親と子への服薬支援 その8 “くすり”についてよろず相談します～	
[リーダー] 上荷 裕広 (すずらん調剤薬局) [サブリーダー] 仙敷 義和 (信栄調剤薬局)		小児医療において薬物療法は大切な治療手段のひとつであり、患児と保護者そして医療者にとって“くすり”は必要不可欠なものである。過去のWSにおいては、小児が服薬を拒む事例のアセスメントやカウンセリング、服薬の動機づけなどの指導や支援の手法を学び、一昨年は原点に回帰して飲ませ方の基本の“き”を、昨年は慢性便秘治療薬マクロゴール配合製剤の服薬支援を検討した。 毎回テーマを変えることで、さまざまな“くすり”について多方向から検討しつつ、その根底に共通しているアセスメントの重要性やカウンセリングなどの手法を参加者に理解していただけていると考える。 今回は年次集会のテーマである「原点を求めて」に基づいて、日常診療における服薬支援や指導において、参加者が抱えている悩みや疑問など“くすり”に関することであればどのようなことでも相談できる“よろず相談”を行いたい。くすりを嫌がる患児への対応、飲ませ方についての疑問、保護者からの質問に対する適切な答え方、患児への指導方法など参加者からの疑問や質問に対して討議したい。“くすり”について、参加者による参加者のためのワークショップとして、明日からの診療に役立てていただけることを目指したい。	
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員	22名	制限なし	
1施設あたりの申込制限	1名まで		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

P-WS-05		熱性けいれん どう対応しますか？
[リーダー] 伊藤 純子（虎の門病院） [サブリーダー] 井上 佳也（井上こどもクリニック） 小児診療の現場では、来院時にはけいれんが止まっている熱性けいれん患者に出会う機会が少なくありません。熱性けいれん診療ガイドライン 2023 には「来院時に熱性けいれんが止まっている場合、ルーチンに外来でジアゼパム坐剤を入れる必要はない」という要約が示されています。一方、熱性けいれん再発予防においてジアゼパム坐剤の有効性を示す報告も散見されるため、解説文には「本ガイドラインで示した要約および解説文は、外来でのジアゼパム坐剤の使用を否定するものではなく、適応は各医療機関の体制や自宅と医療機関の距離などの地域性、家族の心配などを考慮して決めるのがよいと考えられる」と記載されています。ガイドラインで画一的な対応が決められていない時、何を根拠にどのような診療をすればよいのでしょうか。ガイドラインや文献の意味を読み解きつつ、実際の診療にどう生かしていくかを考えてみたいと思います。		
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	20 名	制限なし
1 施設あたりの申込制限	制限なし	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

P-WS-06		子どもの貧困に気づき支援するために part8
[リーダー] 和田 浩（健和会病院小児科） [サブリーダー] 武内 一（佛教大学社会福祉学部） 佐藤 洋一（和歌山生協病院小児科） 子どもの貧困に多くの医療者が心を痛めています、「医療現場で貧困は見えにくい」「気づいてもどうしたらいいかわからない」という声もあります。このワークショップは、そうした「貧困問題初心者」の方を主な対象に、「貧困を抱えた親子に気づけるようになる」「気づいた時にどうしたらいいかのヒントがつかめる」ことを目標とします。この WS に参加することで、あなたもきっと次の一歩が踏み出せると思います。 （この WS は 2010 年問題解決型 WS「子どもの貧困を考える」として始まり、様々な経験が蓄積される中で、2016 年から主に「初心者」を対象にした研修型 WS として開催しています。もちろん「初心者」以外も大歓迎です。）		
開催形式	研修型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	24 名	制限なし
1 施設あたりの申込制限	制限なし	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

P-WS-07		離乳食を食べない赤ちゃん、どうしましょう？
[リーダー] 佐野 洋史 (さのすこやかクリニック) [サブリーダー] 川井田 直子 (白子クリニック) 奥村 裕紀子 (さのすこやかクリニック)		
基礎疾患がない乳児の体重増加不良は日常診療で散見されます。端的に言えばその対応は「たくさん食べて下さい」に尽きるのですが、それができないご家庭が一部あります。きつとどのクリニックでも医師が、看護師が、または栄養士がこの問題に取り組んでいるに違いありません。経験した問題を持ち寄り、情報交換をして、よりよい対応ができるようになるためのWSにしたいと考えています。		
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	30名	医師、看護師、保育士、助産師、管理栄養士
1施設あたりの申込制限	2名まで	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

P-WS-08		クリニック内の急変対応、みんなどうしてる？！ ～メディカルスタッフとしてできること、一緒に考えよう！～
[リーダー] 野村 さちい (一般社団法人 つながるひろがる子どもの救急) [サブリーダー] 尾崎 幸代 (竜美ヶ丘小児科) 榊原 理香 (竜美ヶ丘小児科)		
子どもの急変対応について、“なんとなく不安、心配”と感じたことはありませんか。 クリニックは緊急性の高い子どもに直面する頻度は少なく、不慣れになりがちである。1分1秒を争う救命処置時もちろんであるが、急変前の予兆を見逃さず介入していくにはメディカルスタッフの役割も必要と考える。電話対応や待合室での子どもの様子の確認、保護者への対応など、未然に防ぐためにできることはあると考える。 本ワークショップではロールプレイを通して、急変前、中、後に何ができるか、どんな対応が必要かを一緒に考えていきたい。ワークショップ終了後には自施設での急変時に役立つ内容となるようにしたい。 クリニックでの子どもの急変対応「何をしたらいいかなあ？不安だなあ」、そんなメディカルスタッフの方々ぜひご参加ください。緊張せず、なんでも聞ける環境で一緒に楽しく学び考えていきましょう。		
開催形式	問題解決型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	24名	看護師、事務職、保育士
1施設あたりの申込制限	制限なし	
当日参加	不可	
参加費	無料	

S-WS-01		ウイルス性呼吸器感染症に対する漢方治療 ～急性期から慢性期の漢方治療戦略を考える～
[リーダー] 森 蘭子 （森こどもクリニック） [サブリーダー] 坂崎 弘美 （さかざきこどもクリニック） 木許 泉 （広瀬クリニック） 我々は、小児科プライマリケアにおいて漢方治療を広めることを目的としたWSを開催してきた。最初の数年は、最も問題となる服薬指導についてのWSを開催した。実際に漢方薬を用いた実習を交えて、服用性を向上させる工夫を、メディカルスタッフも含めた参加者でディスカッションした。その後、医師を対象に、処方選択に関するWSを開催してきた。毎年一つのテーマを決め、実際の診療を想定して、問診、視診、鑑別診断、処方決定、有効性の判断、効果不十分の場合の次の選択肢などについて、少人数グループでのディスカッションと、全体討議を交えて進行的な進め方で行った。取り上げたテーマは、発達障害、アレルギー疾患、家族療法、風邪（抗菌薬適正使用）、睡眠障害、心臓の問題などである。今までのWSの経験やプロダクトを踏まえて、服用性を含む漢方薬に関する基礎知識及び、心臓の問題に対する漢方処方について、昨年の第32回年次集会で、セミナーとして発表する機会を得た。 コロナ禍において、西洋薬の供給不足もあり漢方治療が見直された。本年は、COVID-19を含むウイルス性呼吸器感染症に対する漢方治療をテーマとして、WSを開催したいと考えている。日常診療でみられるウイルス性呼吸器感染症の超急性期～慢性期までの諸症状や状態に漢方を使用して、症状改善及び治療を目指す。取り上げる症状や状態は、超急性期（発熱）、急性期（鼻閉、鼻汁、咳嗽、喘鳴）、亜急性期（遷延する咳嗽や鼻汁、痰）、慢性期（慢性咳嗽、コロナ後遺症）などを想定している。参加者は医師に限定し、事前学習として、漢方治療の基本及び、上気道炎に使用する漢方薬についての基礎知識を学び確認する。当日は模擬症例を提示し、少人数のグループでのディスカッションと全体での討議を交えて進め、ウイルス性呼吸器感染症における漢方治療についての理解や、コロナ禍での経験を、今後の診療に生かすことができることを目標にしている。		
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	20名	医師 漢方薬の処方経験がある医師、又は、これから処方しようとする医師（漢方薬の基礎知識についての事前学習に参加してください）
1施設あたりの申込制限	2名まで	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

S-WS-02		少子化時代の小児科クリニックについて話し合いませんか (いなか小児科WS)
[リーダー] 橋本 裕美 （橋本こどもクリニック） [サブリーダー] 松浦 伸郎 （松浦医院） 川島 崇 （川島内科クリニック） 少子化および都市中心部への人口集中により、すでに小児人口が少なくなった地域で診療しておられる小児科医も多いと思います。今はまだ過疎ではない地域においても、少子化の影響は拡大することが予想されます。今後一層深刻となる少子化問題に対して、小児科医の働き方や地域での小児科診療所の在り方は、外来小児科学会が取り組むべきテーマであると考え、今回のワークショップを企画しました。 都会や、交通の便が良く若い世代の多い地域でないところをイメージして「いなか小児科」としました。人口密集地に比べると土地があることで、駐車場の確保がしやすく、遠方からの来院者が多い施設も多いと思います。少子化で一般診療に余裕が出来た分を在宅や育児支援、発達障害、思春期外来などに活動を多角化することや、オンラインでの患者サービスの充実などもあり得ると思います。行政との協力をより緊密に行い、地域の子どものために診療所内にとどまらず活動されている先生も居られるかもしれません。 今回のワークショップでは事前アンケートの実施し、参加者の現状や取り組みを報告いただき、直接に話し合うことで問題点を共有し、今後の診療活動に役立つ新たな気付きを得ることを目指します。過疎が進むことで小児科医も内科医にならざるを得なくなる話を聞きますが、小児科医ならではの少しでも明るい未来を探ることを目指して一緒に考えてみませんか。		
開催形式	問題解決型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	24名	医師
1施設あたりの申込制限	制限なし	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

9月8日(日) 9:00～11:30

WS 会場 3 (2-3 練習室)

S-WS-03		マーラーのフィルムから学ぶ再接近期(いやいや期)の子ども達 ～その対応と混乱する保護者へのアドバイスを考える～
[リーダー]	松原 徹	(城東こどもクリニック)
[サブリーダー]	澤田 敬	(NPO 法人 カンガルーの会)
	赤平 幸子	(城東こどもクリニック)
再接近期とはマーガレット・マーラーが提唱した分離固体化理論で、1歳半から2歳半頃までの時期を指します。俗に言うイヤイヤ期。不安定で攻撃性が一番強い時期です。我が儘になったり、あまえが強くなったり。親から離れて自立したいと思う反面、いざ離れてみると不安が強くなり、再び親に接近し、まとわりついてくる時期です。この頃の子ども達は親から嫌われる不安も持っています。この時期の子ども達への対応を間違えると、発達が固着し、後の人格発達に悪影響を与える可能性が高いと言われています。 このWSでは分離固体化理論を学び、マーラーの撮影したフィルムを視聴し、そこに映された子ども達の表情や行動の裏にあるものを探って行きます。そして育児に困難を抱える親へ、どのような支援が望ましいのか参加者全員でディスカッションします。		
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	48名	制限なし
1施設あたりの申込制限	2名まで	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

9月8日(日) 9:00～11:30

WS 会場 4 (3-1 音楽室)

S-WS-04		子どもの姿勢の崩れや歩き方、気になりますか?家庭でも、園や学校でも出来る (子どもの運動発達に基づいた)運動を実際に行ってみましょう!(理論編と実践編)
[リーダー]	千葉 智子	(上高田ちば整形外科・小児科)
[サブリーダー]	須貝 雅彦	(おひさまクリニック)
	井浦 大知	(上高田ちば整形外科・小児科)
	須貝 京子	(おひさまクリニック)
子どもの体力低下が叫ばれていますが、日常的に姿勢や歩き方(走り方)が気になる、転びやすい子どもが増えています。また、コロナ禍を経て肥満児の増加もみられています。 運動習慣の二極化もある中で、心身の健康を増進できる運動習慣をより多くの子ども達やその保護者、子どもを取り巻く専門職の大人が意識するにはどのようなことができるのかを一緒に考えていけたらと思います。 理論編では「運動」の心身に与える影響を知り、年齢による適切な運動の選び方、日常生活における運動時間や強度の目安なども具体的に示していきたいと思います。当院では、校医をしている小学校の体育の授業の2時間をいただき、理学療法士が小学5年生に実際に体操指導を行って、スポーツテストのテスト項目での有意差を持った成績向上を確認しています。どのようなきっかけで、どのように実際に学校に導入していったのかのご紹介も含め、園や学校での活動のヒントにしていいただければと思います。 実践編では、今回はまず、発達運動学を知っていただき、身体を上手に使うために重要な筋肉のポイントの紹介を行っていきます。その上で、(グループ学習で)自身や相手の姿勢、動きを実際にチェックをし、家庭や園、学校でも出来る発達過程を考慮した運動や運動遊びを行います。 家庭のみならず、保育園や学校でもできる運動を実際に行うことで、参加者ご自身も、自分の身体を見つめ直すいい機会になれば幸いです。		
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	30名	制限なし
1施設あたりの申込制限	2名まで	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

S-WS-05		小児科外来でのきょうだい関係における諸問題への対応
[リーダー]	荒川 明里	(中川の郷療育センター／一般社団法人 日本きょうだい福祉協会)
[サブリーダー]	三平 元	(ひがしまつど小児科／一般社団法人 日本きょうだい福祉協会)
	涌水 理恵	(筑波大学医学医療系発達支援看護学／一般社団法人 日本きょうだい福祉協会)
	土田 晃	(土田こどもクリニック／一般社団法人 日本きょうだい福祉協会)
きょうだい関係は幼少期以降長く続き、直接的および間接的に影響を与えます。きょうだいは支え合う一方で、親の関心を得るための競争や嫉妬など、相反する感情を経験することもあります。年齢差、性別、家族構成、疾病や障害の有無など、きょうだいの関係性に影響を与える事情は多様です。小児科外来では、病児のきょうだい児も含め、様々なきょうだいの関係を目の当たりにする機会がしばしばあります。きょうだい育児そのものに不安や悩みを抱える保護者も多いことを診療の場面で感じることもあると思います。きょうだいである本人が子どもである場合、きょうだい自身は声を上げにくいという課題もあります。私たちは 2023 年 4 月 10 日（きょうだいの日）に（一社）日本きょうだい福祉協会（https://siblingjapan.com/）を設立し、あらゆる立場の「きょうだい」にとっていつでもどこでも安心して暮らせる社会の実現を目指して活動しています。本ワークショップは昨年の年次集会に引き続き開催します。ワークショップ申込者には本ワークショップ専用のメーリングリストへの登録をお願いし、メーリングリストでは参加予定者から事前にご意見を伺ったり、事前事後アンケートから参加者の意識調査を行います。当日、前半は事例を交えながらきょうだい支援の取り組みについて学び、後半は 5～6 名構成のグループディスカッションを行い小児科外来で私たちができるきょうだいにおける問題への対応や支援方法について参加者と共に考えたいと思います。本ワークショップは継続開催につき、アンケート結果やワークショップの内容を学会発表等で報告させていただく予定です。ご了承の上お申込みいただきますようお願いいたします。		
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	24 名	制限なし
1 施設あたりの申込制限	3 名まで	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

S-WS-06		「他所はどうしてる？」うちではこのようにして 予防接種をしています。Part2
[リーダー]	中村 豊	(ゆたかこどもクリニック)
[サブリーダー]	牟田 広実	(いいつかこども診療所)
インフルエンザの予防接種の季節になると、接種風景がテレビで流れることがあります。これを見て「え？」と思われたことはありませんか？ 予防接種は外来小児科の大事な仕事ですが、そのやり方は各施設で工夫されているものと思います。このワークショップでは予防接種の受付から帰宅までの様子を動画で撮影していただき、参加者の間で供覧して、各施設での工夫や問題点を指摘しあい、医療安全の面や効率的な接種の仕方について語り合おうというものです。昨年は接種の様子を撮影していただき話し合いました。今回は受付の仕方・接種後の観察などに範囲を広げたいと思います。 参加施設には必ず動画撮影をお願いしています。このため、参加施設数や 1 施設ごとの参加者数を制限しています。ご了承ください。		
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件
定員	15 名	医師、看護師、薬剤師、事務職 自院の予防接種の状況を撮影可能な方
1 施設あたりの申込制限	3 名まで	
当日参加	不可	
参加費	無料	

9月8日(日) 9:00～11:10

WS会場8(4-4 中会議室)

S-WS-07		Baby-Led Weaning ～赤ちゃんの食べる意欲を育む離乳食の進め方～	
[リーダー] 尾形 夏実 (一般社団法人 日本 BLW 協会) [サブリーダー] 森 寛子 (中村クリニック) 江田 明日香 (かるがも藤沢クリニック)			
日本には離乳食の進め方に悩む保護者が数多くいますが、従来法以外の選択肢を知らず、そのまま困難感を抱えながら、離乳食を進めている保護者は少なくありません。当ワークショップでは従来の離乳食と、Baby-Led Weaning (赤ちゃん主導の離乳) の違いや、Baby-Led Weaning が乳児の発達にどのように良い影響をもたらすかなどを、アクティビティを通じて参加者へ伝えていきます。また Baby-Led Weaning は 2019 年に日本でも翻訳本が出版され、SNS などを中心に多くの保護者の関心が寄せられており、実践している保護者も増加していますが、支援する医療従事者、または施設の数に足りていないというのが現状です。そこで、このワークショップを通じて、より多くの支援者に Baby-Led Weaning を正しく知っていただき、支援を必要とする保護者へが必要なときに支援を受けられる状態を目指します。 当ワークショップでは、講義形式と「食」に関する複数のアクティビティを交互に行い、人間にとって食べるとはどういう事か、乳児にとって食べるとはどういう事か、そして離乳食の支援者としてどのように保護者へアプローチができるかをお伝えします。			
開催形式	研修型	参加可能な職種 / その他の条件 医師、看護師、薬剤師、保育士、助産師、 管理栄養士、言語聴覚士、 作業療法士、理学療法士	
定員	30 名		
1 施設あたりの申込制限	制限なし		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

9月8日(日) 9:00～11:10

WS会場9(4-9 中会議室2)

S-WS-08		【診療部会メディカルスタッフ担当企画】集まれ!メディカルスタッフ♪ ～みんなで語ろう!メディカルスタッフの悩み事～	
[リーダー]	秦 一裕	(ぼよぼよクリニック)	
[サブリーダー]	松田 邦彦	(ぐんぐんキッズクリニック)	
	藤原 亜希子	(ぼよぼよクリニック)	
	経種 奈保	(ぼよぼよクリニック)	
	高橋 美智子	(おひさまクリニック)	
日常業務のなかで、メディカルスタッフが患者様と関わる業務は多岐にわたります。 例えば待ち時間に関する事、予防接種、離乳食や成長の相談。また、受付対応や診察前の問診取りなど、内容は様々です。 その関わりの中で、日々疑問に感じることや悩みなどが生まれてきます。この対応で合っているのかな?もっといい方法があるのではないかな、など考えることは尽きません。 しかし、そういった悩みを共有したり、疑問を解決するための情報を得る機会が少ないのが現状ではないでしょうか。 そこで、全国のメディカルスタッフが参加することのできる、この日本外来小児科学会年次集会にて、「メディカルスタッフのためのワークショップ」を開催します! 【診療部会メディカルスタッフ担当企画】 集まれ!メディカルスタッフ♪ ～みんなで語ろう!メディカルスタッフの悩み事～ 私達が日々感じている悩みや疑問を他施設の方と話し合うことで、新たな気づきや改善点の糸口を見つけてみませんか? そして、今後もいろいろなテーマで、自分の話を聴いて、共感してもらええる場となるワークショップを目指します。 参加者全員でこのワークショップを育てていきましょう!			
開催形式	問題解決型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員	30 名	看護師、事務職、保育士、 助産師、管理栄養士	
1 施設あたりの申込制限	3 名まで		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		